



『遊び』を通した“ぶれない教育”

―見えないものに目を注ぐ―

園長 高田 憲治

幼稚園は学校教育法に定められた『学校』ですから、『勉強』する所であり、『遊び』を大切にしている園は『特別』『異端』『少数派』と思われがちです。しかし、幼稚園教育要領及びその解説書には、幼児期の教育は『幼児一人一人の特性に応じ』『遊びを通して』『自由感あふれる教育』を行うことが重要であり、『教育的価値を教師が取り出して直接幼児に押し付けたり、詰め込んだりするものではない』と明記されています。つまり、『遊び』を大切にしている保育は、『特別』でも『異端』でもなく『正統』なのです。とはいえ『少数派』であるということは確かです。その理由には、以下の二つが考えられます。

一つは、子どもの心に寄り添い、一人一人のやりたいことを実現させていく保育は、子どもの多様な興味関心に応答する環境構成と多くの大人(保育者)の存在が必要であり、計画・実践・管理・運営が大変であり、簡単ではないということです。

もう一つは、活動の結果・成果がすぐに見えないということです。大人の価値観や意図で作りに上げるものは、見栄えのいい舞台発表や造形作品、お行儀よく整列する姿等々、すぐに形になり、成果がわかりやすいものです。

自己決定、自己責任が前提であり、主体的に環境と関わり、問題解決に向けて試行錯誤を繰り返す『遊び』を通して培われるものは、人間としての総合的な育ちの基礎であり、『よく生きる』ための根っこです。幼稚園教育要領には『心情・意欲・態度を育む』とあるように、幼児期の『育ち』は目には見えない心の成長です。

広島女学院ゲインズ幼稚園は、子どもたち一人一人の個性を重んじ、主体的な活動である『遊び』を大切にしている保育を行っています。私たちは、『見えないものに目を注ぐ』(コリントⅡ4:18)ことを大切にし、ぶれることのない『本當の育ち』を追い求めていきたいと思っています。

ある卒園生保護者が『小学校に入学した直後は、文字や数を教えてもらった他園の子たちが、できる“印象を持つ。しかし、ゲインズの子たちは後伸びする。だから、結局“勝ち組”になる。』と語られたことがあります。それに対して『学校にゆっくり適応して、自分の力が発揮できるようになったことは嬉しいことですね。だけど訂正させていただきます。私たちは“勝ち組”を育てる教育はしていません。あえて言うなら、“世の中のどんな立場にある人も負けない社会を創り出す人”を育む教育をしています。それが広島女学院の建学の精神です。』とお話させていただきました。

広島女学院の幼稚園・中学高等学校・大学・大学院は、対象とする幼児・生徒・学生の年齢も教育方法・内容も異なりますが、『神と共に働く者なり』の聖句のもと一つです。それぞれが大切にしている『遊び』や『平和教育』、『グローバル』や『リベラルアーツ』は、流動的な世の中の“ものさし”で計られる価値や評価でなく、神と共に働く“ぶれないものさし”による教育の方法・内容です。簡単ではなく、見えにくいにもかかわらず、本物の教育であると信じてこの学院につながってくださる皆様に感謝しつつ、平和を創り出す使命を果たすために、これからもぶれることなく歩み続けていきたいと思っています。



大学

2015年度秋季宗教強調週間 2015年10月19日(月)～23日(金)
戦後70年われ問う
 ～平和を学び、平和を生かすために～

今季の宗教強調週間は、平和について深く学ぶときとなった。皮切りは19日(月)特別チャペルの国際教養学科4年田中美祐さんによる沖繩研修報告である。沖繩キリスト教平和研究所主催の研修参加を通じて、沖繩が抱える(押し付けられて)矛盾の現実を知って悩むとともに、「現場」で五感をつかい、「現代」と「集まるとともに学ぶ」ことから多くを得たこと、また自身も広島からの発信と聞いかけを通してプログラムを豊かにすることに寄与した様子などが報告から伝わってきた。

20日(火)・21日(水)の特別講師は、歌手沢知恵さんをお迎えした。温かく力強い歌声で、ことばの一つひとつをたいせつに歌い上げる姿に一同魅了された。平和、人権、いのち、誰にとっても生きることに直結したことがらのはずなのに、言葉にするとどうしても重たく、かたくなしく、遠くまでしてしまうテーマへと、聴く者の思いや考えが自然にそこに向かうように導き、またそつと背中を押して下さる歌声には他に類を見ないちからが宿っている。20日のコンサートに続き、21日は講演と詩の朗読によって、沢さんの活動の原点が、母方のご祖父であり詩人の金素雲と、戦後韓国に日本人として初めて留学し、その後、牧師・宣教師として熱心に活動するなか惜しく



も天折されたお父様から受け継いだ、優しさやつよさにあることが示された。ハンセン病患者への差別的な隔離政策のため、13歳より大島青松園で本名を捨てた生活を送ることを強いられ、1,000編にもおよぶ詩をもつた塔和子さんとお交わりのエピソード、そして『選ぶ』という詩の朗読に寄せた伝えてくださった「しつ

かり悩み、恥をかき、自分で選んだことをたとえ挫折しても自分で引き受けること。しかし、しんどいときにはさみしい、助けてと言っている」というメッセージは、渴いた砂に染み入る清らかな水のように、聴く者の胸の奥に届いたことであろう。

昨今、政治・経済・教育など、あらゆるところで空疎なことは消費され、一方では民主主義を求めて声を上げた学生に向けられた被害予告や、マイノリティに対するヘイトスピーチのようなか、言葉の暴力がはびこる中で、このたびの公演・講演は、ことばをいづくし、み、選び、想いを込めて届ける営みこそが持つちからを、再び信じるきっかけをいただく機会となった。22日(木)のチャペルは、そのことへの短い応答を試みた。

(チャプレン 澤村雅史)

第66回あやめ祭

彩 Harmony with the new color

66回目という県内有数の伝統を誇るあやめ祭が今年も開催されました。開催日を台風の心配をしなくてすむ11月、とかつての時期に戻しての再スタートです。当初雨が予想されながらも1日目(11月7日)は天候に恵まれ、模擬店、野外ステージ、屋内プログラムと大勢の来場者でにぎわいました。しかし夕方に開催された人気グループ「ソナーボケッ

ト」のライブ終了と時を合わせるかのように雨粒が落ちて始めます。

翌8日早朝にかけて激しい雨が降り続いたことを受け、急ぎよ模擬店をヒノハラホール館内に移動し、また野外ステージも若干縮小せざるを得なかったのは残念でした。それでも、多くの近隣の方々が家族連れでお越しくださいました。トークショーゲストのJOYさ

んのあたたかい人柄も大好評をいただきました。

あやめ祭の「締め」は、おなじみ生活デザイン・建築学科プロデュースによるファッションショーです。昨年同様ランバスホールでの開催は、高いレベルの衣装と演出に照明と音響が花を添え、すばらしいフィナーレを飾ることができました。

あやめ祭の前後には実行委員会幹部が地域の社会福祉協議会定例理事会でごあいさつをするなど、地域で愛されるあやめ祭を心がけ

てきました。今年度もさまざまなトラブルやアクシデントに見舞われながらのあやめ祭でしたが、何とか乗り切った学生たちの努力に拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。毎年楽しみに来場されているという地域住民の一人から地元で女学院さんがいてくれて私たちもうれしいんよ」と声をかけられ、地域社会の一員としての大学としての認識を新たに、気持ちを引き締まる思いがしました。

(学生課長 宇根治)

第33回公開セミナー

「身近な情報科学」

2015年度公開セミナーが、10月3日、10月10日、10月17日、10月24日の計4回実施された。

情報科学について、私たちの日常生活に関わる身近な視点から考えるということとをテーマとして掲げた。コンピュータは、私たちの生活に、情報の入手、情報の発信、情報の蓄積などの点で、便利さをもたらした。しかし、その一方で、個人情報流出やコンピュータ犯罪、SNSでの人権侵害など、問題も生

学生デザインの街路灯

牛田商店街街路灯デザインコンペティション

11月23日牛田商店街の歩道に街路灯が灯りました。

昨年夏、牛田商店街の安心安全な街づくりのために、商店街振興組合と生活デザイン・建築学科のコラボ企画「街路灯デザインコンペティション」が始まりました。

学生たちは、調査・デザインを行い、プレゼンテーションボードと模型を制作。応募総数12点、一次審査で5点、二次審査で3点に絞られ、展覧会(6月9日～22日・牛田商店街かうちゃんフォーラムにて)



じている。だからこそ、私たちは、コンピュータについて正しく理解し、有効に活用していく方法を身につけなければならない。

今回の公開セミナーでは、いずれの回も、専門的な視点から、情報科学の問題について分かりやすく説明された。参加された皆様方からは、「細かく説明くださりよくわかりました」といった意見が寄せられた。なお、参加者数は133人で、修了証書授与者数は40人であった。

(国際教養学科主任 柚木靖史)

の人氣投票を経て、最優秀案(4年生藤田しほりさん・山縣瑠璃奈さん・山代優子さん)が決まりました。電器会社の助言で改良を重ね、基本デザインが確定。工場製作の後、合計24基がほおずき通り・牛田大橋通りに設置されました。

街路灯が茂る商店街では、みずみずしいほおずきの実が、今後、私たちが照らし続けることでしょう。

(生活デザイン・建築学科 建築士課程主任 細田みぎわ)

2015年度秋季講演会報告

国際教養学科

演題：「動物園の種の保存」
 講師：大津 晴男 先生
 (安佐動物公園 飼育・展示・種の保存・繁殖担当課長)
 日時：2015年11月11日(水) 15:30～16:45
 場所：人文館303教室

演題：「国際バカロレアの3つのプログラム
 — PYP/MYP/DPについて—」
 講師：大迫 弘和 先生(本学客員教授)
 日時：2015年12月2日(水) 15:00～16:45
 場所：ソフィア館201教室

生活デザイン・建築学科

演題：「keep looking —自分の輝く道を求めて」
 講師：本学卒業生3名
 ・中田美優樹さん(ホテルグランヴィア広島
 ウェディングプランナー [2011年度卒])
 ・才木 理子さん
 (株式会社リビズ[2012年度卒])
 ・吉井 由衣さん
 (中学家庭科非常勤講師[2013年度卒])
 日時：2015年11月25日(水) 14:45～
 場所：人文館303教室

管理栄養学科

演題：「大豆と大豆加工食品」
 講師：三浦 芳助 先生(管理栄養学科 特任教授)
 日時：2015年12月2日(水) 15:00～
 場所：人文館303教室

幼児教育心理学科

演題：「夢を実現し、人生を楽しむ」
 講師：山崎 拓巳さん(アーティスト、作家)
 日時：2015年11月28日(土) 15:30～
 場所：人文館303教室

第15回広島女学院クリスマス・ツリー 点火音楽礼拝報告

待降節(アドヴェント)が始まった週の11月30日(月)の夕べ、第15回広島女学院クリスマス・ツリー点火音楽礼拝が、ランバスホール前広場で開催された。

学生、園児、教職員、保護者、一般者の約200名の参加者であった。

宗教主任 前田 美和子先生の司会により、讃美歌106番「あらののはてに」合唱、聖書朗読(マタイによる福音書2章1～11節)、お祈り、讃美歌21～269番「かいばおけにすやすや」と合唱を行った。

続いて、チャブレン澤村雅史先生によるクリスマスメッセージが述べられた。贈り物とは一方的なものではなく、贈り手と貰い手の双方の気持ちがあつて初めて成立するものであり、クリスマスは神様が私たちにイエス様を贈ってくださったことを覚える日であることをお話くださった。

続いてアンサンブル・エスポワールによる「神の御子は」(讃美歌111番)の演奏、聖歌隊&アンサンブル・エスポワールによる「まきびとひつじを」(讃美歌103番)の演奏と合唱、



聖歌隊による「Nativity Carol」による合唱が行われ、ゲインズ幼稚園の子どもたちが「アドヴェントクランツに」、「かみさまのおやくそく」、「We wish a Merry Christmas」を合唱した。

点火式では、もみの木を眺めながら、皆で10、9、8、7、とカウントダウンし、チャブレン、学生、園児が点火スイッチを押しツリーが点火された。最後に、讃美歌109番



「きよしこのよる」を皆で合唱し、チャブレンによる祝詞によって終了した。ツリーは12月25日(金)まで毎日17時から20時30分まで灯される。(宗教センター 中嶋 知子)

2015年度 ゲインズ学術 奨励賞受賞者

【国際教養学部】

国際教養学科

竹内 百合

【人間生活学部】

生活デザイン・建築学科

田尾 美波

管理栄養学科

野田 奈世

幼児教育心理学科

尾花 奏美

管理栄養学科3年生 学外臨地実習 報告会の開催

管理栄養学科の学生は、今まで大学内で学んだ各分野の理論が、実践の現場でどのように応用されているかの学びを深め、同時に管理栄養士・栄養士としての業務が実行できる能力を身につけるために3年生の秋学期から学外臨地実習に参加します。初めての臨地実習は給食経営管理臨地実習(事業所・小学校・保育園・高齢者福祉施設等)と公衆栄養学臨地実習(保健所・保健センター)です。4年生になると臨床栄養学臨地実習(病院)もあります。

実習前には、多くの学生



(管理栄養学科教授 石長孝二郎)

は緊張し、毎日夜遅くまで、事前学習や課題の事前準備を行いました。実習先の指導者の育てようとする温かな人格が形成されていくのを教員は実感しています。11月21日は、臨地実習報告会が開催され、活発な議論の場となりました。

2015年度 幼児教育心理学科 運動会

秋晴れの下、去る10月24日に広島女学院大学グラウンドにて幼児教育心理学科の運動会が開催された。



この運動会の企画・運営は、同学科3年生の本郷彩佳さんを委員長とする運動

会実行委員の学生が主体となり行われたが、半年も前から準備に取り掛かった努力が実を結び、教員一同、実行委員を労い成功を喜んだ。

今年プログラムには6種目の競技とフォークダンスが準備され、日ごころは接することが少ない1年生から4年生(4年生は希望者)が団結してチームで得点を競う。応援する声飛び交う中、期待を一身に受け風を切って走る大学生の姿が印象的であった。

参加者として、また将来教育現場に立つ者として、それぞれが多くを学んだ一日であった。

(幼児教育心理学科准教授 田中 沙織)

中学・高校

2015年度 中高合同文化祭

中学

今年の文化祭は、直前まで雨の予報が出ていたにも関わらず、私達の願いが届いたのか、天候にも恵まれ、たくさんの方々足が足を運んでくれました。

校内には食販のテントが張っており、様々な装飾がほどこされ、普段の学校とは一味違う雰囲気を感じられました。この装飾は、部活動に所属していない中学生が、少しでも楽しい雰囲気を出せるように考えながら飾ったものです。お陰で文化祭に来られた方も、校内に入る前から楽しい気分になることができました。所属していない生徒も、学年



を越えて装飾の仕事を協力し合うことで、新しい絆ができたことと思います。

さて、私達五人委員会も、当日は昇降口での案内・靴袋の配布や、自分達で計画したスタンプラリーの受付をしました。スタンプラリーの参加者には特に小学生の女の子が多かったようで、どの子もスタンプラリーを楽しみながら、女学院はこんな所なんだなあと、目を輝かせて校内を歩かせていました。このようにお客様の楽しむ姿を見て、私達もこの文化祭を通して女学院の魅力を伝えることができましたと思います。またこの文化祭を通して、責任を持って仕事をやり切ることは大変ではあるけれど、達成感・充実感を味わうことができました。

最後に、忙しい中文化祭に足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。来年度も更にお客様に楽しんでいただけるように、今から知恵を出し合い、工夫していきたいと思っています。

(中学五人委員会顧問
中原克芳)

高校

礼拝を共にし、ファンファーレで幕開けした今年の文化祭も無事に終えることができました。今年は新たな試みとして、朝鮮文化研究同好会の演奏と共に開門しました。心配されていた雨も降ることなく、パン

フレットがなくなってしまうほどのお客様に恵まれ、多くの方々に楽しんでいただけたと思います。



今年度は、それぞれの団体がテーマ「和・輪・心」にそって発表しました。クラス発表では、A組が迷路、B組がすごろく、C組が緑日、D組がパフォーミング、E組がお化け屋敷を担当しました。高校一年生と二年生が協力して準備を進め、クラスそれぞれに個性あふれる発表でした。常にお客様の出入りがあり、賑わっていたように感じます。また、文化部や運動部の発表においても、普段の成果を見ていただくことができました。どの団体も努力や涙の結晶が輝いていました。そして、今年のテーマ「和・輪・心」は、生徒同士でまとまり団結し、個人や団体で想うモノを見つけてほしいと

思い、このテーマを考えました。そのテーマに沿って各々が準備しベストを尽くした結果、実現することができました。

さらに、昨年までは高校校舎のみでの発表だったのが、校舎内が大変混雑していましたが、今年中学校校舎でも発表を行いました。実際にお客様からスムーズに動けるようになったとお声もいただいたように、おそれによって混雑が緩和されて移動しやすくなったと感じました。

また、生徒会企画も趣向を凝らし、謎解きゲームをしました。多くの方に来ていただき、忙しくも充実した1日になりました。

さらに改善できる点もあると思うので、少しずつ見直して、来年度からも、女学院生にもお客様にもより楽しんでもらえる素敵な文化祭を作り上げていきたいと思っています。

教職員や事務職員の皆様、並びに保護者の皆様、ご協力していただきありがとうございます。温かく見守られ、ご指導くださり、安心して準備・開催することができました。皆様の支えがあったこそ仕上がった文化祭です。今年の文化祭で生徒それぞれが得たものは、きっとこれからの将来でも役立つっていくことと思います。

(高校生徒会実行委員長
村松佳子)

高2修学旅行

高2は、10月6日(火)〜9日(金)の4日間で沖繩研修旅行に行ってきました。

1日目、2日目は沖繩の歴史や文化の学びを中心とした行程でした。沖繩戦については、1学期から主体的に事前学習を積んできました。この2日間では、資料館を見学したり、現地のガイドさんのお話をうかがったりしました。戦争といえは、被爆地であるヒロシマ・ナガサキの印象が強いですが、唯一の地上戦の舞台となった沖繩にも広島や長崎とはまた違う悲惨な

戦争の歴史があることを知りました。また、暗闇のガマの中で当時の生々しい様子を聴いて衝撃を受け、涙する者も多くなりました。これらは私達たちにとって、感概深い経験となりました。

3日目、4日目は沖繩の自然と文化を存分に楽しみました。美ら海水族館や7つのグループに分かれての体験活動を満喫しました。

4日間という短い期間ではありましたが、貴重な時間を過ごすことができました。この経験を糧として広い視野で、今後の活動に取り組んでいきたいと思っています。

(高2 原口佳奈子)

中3研修旅行

私たちは、10月7日から9日にかけて研修旅行に行ってきました。1日目は、平和資料館に行ったり、語り部さんのお話を聞いたりしました。語り部さんのお話を聞いて戦争の悲惨さをあらためて知り、二度と戦争をくり返してはいけなそうと思いました。2日目の午前中は、平和公園で平和セレモニーを行い、中3全員で折った千羽鶴をさげました。午後は班別行動をして長崎の文化を知りました。長崎の大きなお祭りである「くんち」を見ることもできたのは貴重な体験でした。グループの仲も深まってよかったです。3日

目はとても楽しみにしていたハウステンボスに行きました。しっかりと班別行動を守って計画的に回りました。この修学旅行を通して長崎の文化や平和の大切さなどを学びました。

(3年4組 向井希望
沖あやか)



キリスト教
強調週間

(11月16~21日)



要と考え、ルワンダに学校を作るNPOを立ち上げました。また東日本大震災後は、仮設住宅の被災者を支援するルワンダカフェを主宰しています。

学年別活動では「隣人と共に生きる」をテーマに、体験学習や、各分野で活動されている講師の方々との豊かな出会いがありました。閉会礼拝では、代表生徒の発表から、互いの学びを分かち合いました。

(宗教教育委員会)

「つなげていくこと、つながるということ」

高3 谷本茜

今年度のキリスト教強調週間を通して私が感じたことは、つなげていくこと、つながることの持つ力と大切さです。

「主題」教育は未来への「扉」、主題聖句「疲れた者、重荷を負うものはだれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイによる福音書11章28節)、講師にルワンダ出身で福島在住のマリーイズさんをお迎えし実施されました。

マリーイズさんは、青年海外協力隊の現地協力員として働いたことが縁で、福島で10ヶ月間研修を受ける機会を得ました。帰国直後の1994年に内戦が勃発、100万人が虐殺されたとも言われる混乱の中、3人の幼子と共に、難民キャンプにたどりつきます。日本に無事を知らせるファックスを送ろうとしていたところを、日本人医師が目留め、通訳を頼まれます。難民の受け入れに厳しい日本になんとか入国できるよう友人たちが奔走し、留学生として家族と共に再来日。教育のおかげで自分も家族も生き延びられた経験から、祖国ルワンダの未来のために教育こそ必

ルワンダが植民地にされ、内戦が起きた時も、なぜこのようなことが起きているのか、そしてなぜ対立しているのかを、多くの情報をもとに知ることができたなら、人々はこのように争いは絶対にしなかつたし、する必要がないということが分かったらどうと話されていきました。教育がどんな社会や文化の中にも受けられる世界になることで、他人に扇動され、望んでいない争いで命を落とすことが無くなれば、平和な世界の実現につながると分かりました。

中高
クリスマス行事

毎年、クリスマスが近づくと、中学校地には讚美歌コンクールの練習の歌声が流れ出します。当日は各クラスが美しいハーモニーに合わせて、クリスマスや聖書の語るメッセージの豊かさを伝えてくれました。

中学クリスマス礼拝では、その課題曲を学年ごとに賛美し、合唱部の合唱、YWCA部のハンドベル、放送部の聖書朗読などと共に捧げました。

高校クリスマス礼拝は、演劇部による『なるほどクリスマス降誕劇』が上演されました。クリスマスを前にしたアメリカのある小さな教会で、子どもたちが恒例の降誕劇の準備を始めようとしていたところへ、乱暴で評判の悪いハードマン

新設ワンス
Global Issues

スーパーグローバル
ハイスクールとしての取り組み

SGH指定2年目の今年度、高1において新しくGlobal Issues (GI)を開講しており、受講生徒全30名が12月末に山梨学院大学の施設学部である国際リベラルアーツ学部が主催するiCLA Liberal Arts Campに参加しました。2泊3日、英語漬けのキャンプですが、楽しく英会話、という類ではなく、社会学、物理学、文学、政治学の観点から核軍縮を英語で学ぶ講

義を5つ受け、更に生徒同士で討論し、プレゼンテーションも行ないました。キャンプ前の予習も大学レベルのものが要求され、生徒たちは戦々恐々と山梨に赴きましたが、ひとりひとりがきちんと取り組み、かなりの手ごたえを感じ、一方で山梨学院大学の教員の方々からも生徒の姿勢やレベルの高さを称賛されました。山梨学院大学iCLAはそこだけが日本ではないような空間です。教員、学生ともに外国人が多く、施設の素晴らしさも手伝って、生徒の中にはiCLAを志望

したいと言う者まで出てきたほです。

GI受講生徒は春には海外研修としてハワイに行くことになっていきます。とはいっても、プログラムにピーチもなければショッピンングもありません。あるのはひたすら「平和を創り出すためのプログラム」です。Global Issuesを考えるための講座として、このように新しい取り組みを様々な展開しています。また次号の学院報にてハワイ研修の様子をお送りします。

(グローバル教育推進部 高見知伸)



長谷川先生のバイオリン、中野部、YWCA部、高橋部、音楽部、聖歌隊などが加わり、保護者、卒業生、受験する小学生やそのご家族、市民の方々にも女学院のクリスマス豊かさを味わっていただきました。

木村弘美牧師先生(日本キリスト教団)が中高クリスマス礼拝と女学院クリスマス3回のメッセージを担当下さいました。

なお、中高生徒・教職員、女学院クリスマス献金221,780円は、ルワンダの教育を考える会他、国内外の福祉団体・支援団

生徒の活躍

- ◆中3 長坂小如
第55回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト
国際連合広報センター賞
- ◆高1 鈴木 絵菜
第54回全国高等学校生徒英作文コンテスト
入選
- ◆高1 植田 愛佳
国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール
(公財)日本国際連合協会会長賞受賞
3月、国際連合本部に招待されます。

幼稚園

感謝祭礼拝

各家庭から持ち寄ったお野菜や果物を囲んで、今年も感謝祭礼拝の時を持つことができました。お野菜や果物を育ててくださる方々、お料理してくださる

お家のひと、そしてそれらのたくさんのお食べ物を私たちに与えてくださる神様に感謝をし、日頃お世話になっていらっしゃる方々のもとへ「ありがとう」をお届けに伺いました。また、各クラスでは持ち寄った秋の味覚を楽しく味わうことを通して更に神様に感謝を感じています。

(幼稚園 西保菜里香)

秋まつり・あそびランド

今年度初めて開催したこの行事は、保育室やテラスを制作、木工、自然クラフト、手芸、粘土、泥だんご、積木、ゲームなどのコーナーに分け、十分に用意された材料や素材、遊具の中でやりたい遊びを家族で存分に楽しみました。また曲芸師の天野耕太さんをお招きし、パフォーマンスを拝見した後、一緒にバランスボードを体験しました。

に幸せを感じる一日でした。(幼稚園 木村和美)



講演会

絵本クラブでは、お気に入りの本を紹介し合い、たくさんのお話を共有しています。11月は講師として村本知子先生をお招きし、ストーリーテリングの魅力や絵本が作ってくれた大切な時などをお話していただきました。大人の私たちもお話の世界に触れ、幸せな時を過ごしました。

(絵本クラブ 南原陽子)



豊かな恵みをありがとう



クリスマス

「イエス様の誕生は暗い世界に小さな明かりを灯したように人々の心を明るく優しく温かな気持ちにしてくれました」初めは小さな灯火だった子ども達の心の中のクリスマスが、友達とろうそくの灯を囲み、お話を聞き、讃美歌を歌い、大好きな人の喜ぶ顔を思い浮かべながら贈り物を作り、クリスマスまでの日々を大切に迎える中で、大きな喜びとなりました。クリスマス礼拝ではページェントを行い、たくさんの方々と喜びの時を分かち合う時間となりました。

(幼稚園 小原由美子)



クリスマス おめでとう



たからものを捧げる博士たち

10月20日、ゲインズ幼稚園ホールにて、京都大学名誉教授の鯨岡峻先生をお招きし、「子どもの心の育ちに目を向けてみませんか」と題して講演会を行いました。子どもが自分らしく生きていくため、親は目に見える子どものことができることとできないことばかりを追わず、親の心を子どもの心に寄り添わせ、子どもの心の充実を心にとめる重要性を教えてくださいました。

(あゆみの会 加藤まり子)



事務局

2015年度の広島女学院
全学院研修会 研修報告

2015年度の広島女学院全学院研修会の企画委員会は、古重歌織教諭(幼稚園)、小山雅之教諭(中高)、永野晴康専任講師(大学)、前田美和子専任講師(大学)、下高呂千春事務職員(大学)、大田香事務職員(大学)、熊野靖子事務職員(大学)の7名で発足しました。

第1回の委員会は、8月12日に頌栄館会議室で開催されました。湊院長のイニシアチブと大北事務局長、増田法人事務局次長兼総務課長のご助言を頂き、充実した研修会を実施することが確認されました。いくつかの過程を経て、今年度のテーマは、「広島女学院の危機感の共有と今後の対策」と決まりました。来年度の創立130周年へ向けた広島女学院の新たなスタート地点の確立を目指すためにも、学院が抱える問題に正面から向き合うことにしました。「法人の財政問題」や「大学の将来への方向性」に焦点を絞ったテーマを設定し、形式的な研修会ではなく、本気で意見を交換する場を設けることになりました。



全学院研修会当日は、新たに就任された中川理事長から、「財政の現状とその改善にむけて」というご説明を受け、深刻な大学の財政問題とその対応策が提示されました。大学の現況に關して、「大学の現取組みの実態と将来の方向性」という演目で、湊学長、波多野国際教養学部長、村上人間生活学部長、桐木副学長より説明がありました。それを受け、星野中高校長より「中高からみた大学の現状と提案」と題して、具体的な提案や要望がなされました。次に、高田園長より、「幼稚園からみた大学の現状と提案」と題して、大学にとって示唆に富む保育の質の向上という視点からお話し頂きました。

続いて、維持会問題を受けて、「コンプライアンスの確立に向けて」と題して、大北事務局長から法令遵守の具体的な説明がありました。また、「教学に關する監査の視点」と題して、利島監事より各校部への教学運営上の留意点が示されました。

意見交換会では、多様な質問や意見が挙がり、率直で活発な議論がなされました。今回の研修会に意味を持たせるためには、今回の意見交換会での議論を大学や学部での議論を活かし、大学側は時機に応じて、関係者へ報告する必要があると見えます。指摘された改善策に真摯に取り組み対応することは、2014年度の全学院研修会のテーマである「きずな」の構築にもつながります。大学で働く教員や職員がまずできることとして、自らが高校生や学生の憧れとなり目標となるように、日々誠実に研鑽する必要があります。創立130周年へ向けて、広島女学院全体の飛躍を目指していきたいものです。

最後に、開会礼拝を担当されました刀祿館先生、研修会の準備や会場の設営に携わって頂いた教職員の皆様、当日ご出席頂いた皆様ひとりひとりに、委員一同心よりお礼申し上げます。
(国際教養学科 専任講師 永野晴康)

駐日デンマーク大使と
学生の交流会
「Cool Denmark」



12月8日、駐日デンマーク大使Freddy Svane(フレディ・スヴェイネ)氏が、大学キャンパスにお越しください、学生と交流の時を持つていただきました。このたびの交流会は

「Cool Denmark」と題し、大使よりデンマークについてお話をいただいた後に、大使と学生のあいだでデンマークに関する自由な意見交換や質疑応答を行いました。国際教養学部を中心に両学部から40数名の学生が参加し、会の進行ならびに質疑応答はすべて英語で行いました。

2017年に日本とデンマークは外交関係樹立150周年を迎えます。大使は両国間の一層の相互理解を促進させるために、日本の若者と意見交換の場を持つことを強く望まれ、今回の交流会実施の運びとなりました。学生からは、デンマークの福祉の水準の高さと国民の労働意識の相関性、グリーンエネルギーを推進する国策、オーガニックフードへの取り組みやデンマーク独特の「Hygge」な生活などについて質問があり、大使は一人ひとりの質問に丁寧にお答えくださり、デンマークの現状を紹介くださりました。大使には、貴重な機会を与えて下さいましたことに対して心よりお礼申し上げます。
(秘書・広報課 住田葉子)

第31回広島女学院クリスマスコンサート「Messiah」
マスコンサートMessiahは、星野晴夫校長先生の指揮により12月23日(水)ゲーンズホールにて開催されました。多くの方々のご指導、ご協力、ご参加により大変感動的な音楽をお捧げすることが出来ました。ご来場いただいた皆様、メサイア・コンサートをお支えくださった皆様に感謝申し上げます。たくさんの方々のお力があってこそこのコンサートであったと感じております。年末のご多忙の中、練習に足を運んでくださった参加者の皆様、メサイア・コンサート運営にご尽力くださった皆様には感謝申し上げます。ご指導・ご意見をいただきながら作り上げるコンサートは皆で作ります。

「Cool Denmark」と題し、大使よりデンマークについてお話をいただいた後に、大使と学生のあいだでデンマークに関する自由な意見交換や質疑応答を行いました。国際教養学部を中心に両学部から40数名の学生が参加し、会の進行ならびに質疑応答はすべて英語で行いました。2017年に日本とデンマークは外交関係樹立150周年を迎えます。大使は両国間の一層の相互理解を促進させるために、日本の若者と意見交換の場を持つことを強く望まれ、今回の交流会実施の運びとなりました。学生からは、デンマークの福祉の水準の高さと国民の労働意識の相関性、グリーンエネルギーを推進する国策、オーガニックフードへの取り組みやデンマーク独特の「Hygge」な生活などについて質問があり、大使は一人ひとりの質問に丁寧にお答えくださり、デンマークの現状を紹介くださりました。大使には、貴重な機会を与えて下さいましたことに対して心よりお礼申し上げます。
(秘書・広報課 住田葉子)

同窓会からのお知らせ
2016 ホームカミングデー
テーマ 伝えること 伝統と誇り
日時 2016年4月23日(土) 10:30~13:30
場所 リーガロイヤルホテル広島
会費 8000円
2016 ホームカミングデー実行委員
当番学年 高校16 短大15 大英16 高校26 短大25 文英8 文日8 高校38 短大37 文英20 文日20
同窓会事務局 TEL・FAX 082-221-1059 皆様のお帰りをお待ちしています。



会議報告

第137回理事会

2015年9月29日14時5分から開催。審議事項として、2015年度事業計画の上半年の進捗状況及び課題と対応について、法人及び各校部から報告があり、質疑応答の後、承認した。

続いて、中高の外国人教員を日本人教員と同等の給与待遇とするための給与規程の改正を行った。

次に、大学教員の人事として、契約期間満了となる幼児教育心理学科の松浦正博特任教授の後任として、教員免許状の取得科目との関係から補充人事が必要であり、2016年4月から大橋隆広准教授を専任教員として採用することを決定した。

報告事項として、各校部からの学事報告があり、続いて、湊学長から、国際教養学科の今年度末退職者2名(小松正昭特任教授、金田仁秀准教授)について、補充希望はあるが、現在の財政状況を踏まえ採用は見送ることにしたこと、また、中高教職員48名から、寄附行為施行細則第9条により、中高教頭2名を理事に加えてほしいとの要望が出されていることの報告があった。

10月定期評議員会

2015年10月17日10時から開催。

選任事項として、本年3月31日に退任された辻前評議員の後任として、広島市立大学広島平和研究所副所長・教授の水本和実氏を選任した。任期は、本日から2017年3月31日まで。

諮問事項として、2015年度事業計画の上半年の進捗状況及び課題と対応について、法人及び各校部から報告があり、質疑応答の後、了承した。

報告事項として、各校部からの学事報告があり、続いて、財務改善検討委員会中間報告についての概要説明の後、意見交換を行った。

第138回理事会

2015年11月24日14時から開催。

選任事項として、次期校長(任期は2016年4月1日から2018年3月31日まで)について、次期校長選考委員会から答申のあった星野現校長とすることを決定した。

続いて、次期国際教養学部長及び文学部長(任期は2016年4月1日から2018年3月31日まで)の選任について、波多野現学部長とすることを決定した。

審議事項として、契約期間満了に伴い退任となる管理栄養学科の三浦特任教授の後任として、佐藤努准教授を専任教員採用することを決定した。

続いて、コンプライアンス実践のための仕組みづくりの一つとして「内部通報に関する規程」を制定した。

報告事項として、各校部からの学事報告、契約教職員等の人事、財務改善検討委員会中間報告を踏まえた今後の対応策等について報告があった。

教職員動静

11月30日受付分まで

召天

番倉 三郎様 (松田俊治財務課長兼会計課長ご養父) 2015.8.26 Deborah Lynne Foreman (Takano 様(元大学教授)) 2015.9.4

清水 よし子様 (元中高教諭) 2015.10.2 魚坂 寛様(元中高教諭) 2015.10.20 末永 山彦様 (末永航国際教養学部教授ご尊父) 2015.10.28

坂井 英子様 (坂井堅太郎人間生活学部教授ご母堂) 2015.10.31

誕生 輝真君(岡崎博美中高教諭ご子息) 2015.9.4

人事

選任

評議員 水本 和実 (2015.10.17~2017.3.31)

就任

大学国際教養学部専任講師 伊藤 千尋 2015.9.20付

寄附

11月30日受付分まで

広島女学院のために

日本平和教育研究協議会様 50,000円 今石 牧子様 中伝協女性セミナー様 10,000円

中高教育充実のために 澤村 雅史様 5,000円 甘川 加緒理様 20,000円

広島女学院ゲーンズ幼稚園のために 広島女学院ゲーンズ幼稚園 みぎわ会様 380,000円

アイリスセンター維持費 広島女学院同窓会様 600,000円

現物寄附 桑本 仁子様 [Black Butterfly] キョーリツ株式会社様 インタビューパネル 中司 浩生様

「原色日本の美術」1~33巻 「原色図典日本美術史年表」

広島女学院大学聖歌隊(クワイヤ)&学生オルガニスト 教会コンサート2016 2016年2月20日(土) 開演:14:00(開場13:30) 日本キリスト教団 広島流川教会(広島市中区上鞆町8-30) ※駐車場のご用意はありません。 合唱:広島女学院大学聖歌隊 オルガン:学生オルガニスト 指揮:玉理 照子 広島女学院大学宗教センター ☎082-228-0415

日誌

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates like 10.1(木) 全学院研修会, 10.7(水) 大学秋季卒業礼拝, 10.8(木) 事務協議会, 10.10(土) 幼稚園運動会, 10.17(土) 定期評議員会, 10.27(火) 常任理事会, 11.1(日) 中高文化祭, 11.7(土) あやめ祭, 11.8(日) 財務改善検討委員会, 11.10(火) 財務改善検討委員会, 11.12(木) 事務協議会, 11.24(火) 理事会, 12.8(火) 財務改善検討委員会, 12.10(木) 事務協議会, 12.19(土) 幼稚園終園日, 12.19(土) クリスマス礼拝, 12.19(土) 中高終業日, 12.22(火) クリスマス礼拝, 12.22(火) 音楽礼拝, 12.23(水祝) 常任理事会, 12.23(水祝) 第31回クリスマスコンサートメサイア

編集後記

新年おめでとうございます。本学が創立130周年の年を無事に迎えることをお慶び申し上げます。わたしはフランス革命200周年の翌年1990年に本学に着任しました。早くも四半世紀になります。本学がかつての元気を取り戻す年になりますように。(大学 宮本陽子)

お詫びと訂正

第176号9頁において大学協力会新監事は「中川 参様」となっておりますが、正しくは「中川 賛様」でした。お詫びして訂正させていただきます。